

パワープロの世界に転生  
したっぽい。

トップハムハット卿

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

主人公、久我虹介は、ある日突然、パワプロの世界に転生した。

新たな高校にはパワプロキャラが――。

キャラたちに野球部に誘われ、主人公も入部。

甲子園を目指す物語が――今、はじまる。

# 目次

#1	え、僕転生したの？	1
#2	いつぱいパワキヤラいるね…	8



# #1 え、僕転生したの？

「うわあああああ!!!」

夢から覚め、僕は飛び起きた。

どうやら悪夢を見ていたらしい。

背筋が凍る内容だった。

帰宅途中、スマホアプリのパワプロをしながら歩いていたら、そこへ車が突っ込んできて、即死。

夢の中で死んだところで、夢から覚めた。

あれは何だったんだろうか……。

夢にしては、轢かれる感覚とか妙にリアルだったし……。

深く考えても分かりそうにないし、とりあえず身体を起こして学校へ行く準備をしよう。

僕は、くがこうすけ久我虹介。

この春で高校一年生になる。

今日はその入学式だ。

新しい制服に身を包み、新しい学校へと向かう。

中学の入学式の時も状況は同じだったが、高校になると少し心境が違う。

「楽しみだなあ、高校生活」

学校へ到着。

正門のところは新入生で、ごった返していた。

僕の見知った顔は……………。

今のところいない。

まあ、それも当然か。

僕の出身はここじゃない。

親の転勤の関係で、引越してきたから。

貼り出されている名簿を見て、自分のクラスを確認し、教室へ向かう。

「えっと、1—6、1—6はどこだ——あつた。」

””1—6””と書かれた教室に入ると、既に半分以上の人が中に居た。

クラスに貼つてある名簿によると、僕の席は——壁から2列目、一番後ろ。後ろの扉から入つて、席に座る。

左隣は空席、まだ来ていないっぽい。

前の席は……。

僕は目を奪われた。

前の席の子は、髪が美しすぎるまでに、真つ白だった。

テレビでも見たことの無いような髪色。

髪の毛の根っこから白だし、おそろく地毛なんだろう。

どんな子か少し気になるし、声掛けてみようかな……。

「あ、あの。後ろの席の久我です。よろしくね」

僕ががそう言うのと、

「霧崎礼里だ。」

彼女はこちらを見ずに、そう答えてくれた。

いや、せめてこつち見てくれよ。

冷たい対応に少ししよげていると、左隣の子が——つて、デカっ！

「いきなり””デカい””なんて、レディーに言うかな!？」

「あ、””、””ごめん！」

口に出てたらしい…。

それにしても女の子にしては、本当に背が高い。

間違いなく僕より高い。

おそらく170後半はありそうだ。

「こつちもいきなり””ごめん。わ、私は太刀川広巳たちかわひろみ。よろしくね」

元気そうな見た目と違い、すこし内気そうな太刀川さん。

「僕は久我虹介。よろしく。」

ちよつと待て、太刀川広巳だつて？

彼女とは初対面のはずだけど、僕は彼女の名前に聞き覚えがある。

いや、聞き覚えがあるどころではない。

おそらく、僕は彼女を知っている。

もしかしたら偶然かもしれないし、一応聞いてみる。

「太刀川さんってさ、もしかして中学の時にスポーツとかやってた？」

「野球をやってたよ。ここでも野球部に入るつもり。」

「へえ、野球部だったんだ。ちなみに、ポジションは？」

「ピッチャーとサード」

やっぱり。確信した。

高身長で筋肉質、そして内気な性格。

ポジションはピッチャーとサード。

彼女は間違いなく“あの”、“太刀川広巳だ。

身長176cm。体重72kg。

投手適正に加え、三塁手適正42E。

左投げ右打ち。

打撃フォームはスタンダード1。

弾道2。ミート56D。パワー60C。走力57D。肩力58D。守備60C。

野手特殊能力：バント職人、逆境○、積極守備。

投球フォームはオーバースロー9。

球速141km/h。

コントロール65C。スタミナ78B。

変化球：カーブ3、スクリーン3、Hシフト3。

投手特殊能力：対ピンチ○、打たれ強さ○、ケガしにくさ○、ノビ◎、重い球、尻上がり、対強打者○。

僕がパワフェスで一番使用した回数が多いと言っても過言ではないキャラ。

アプリでも一番最初に入手したPSRキャラ。

確率の壁が幾度となく立ちほだかり、金特“怪物球威”を入手できずに涙を飲みながら数多の退部届をだしたこともいい思い出だ。

そんなゲームの中の世界にいる彼女が、なぜ・・・？

今朝起きてから、僕自身に何か変化があったわけじゃない。

今人気の異世界転生をするような出来事だつて——

——あつた。

一つだけ思い当たる節がある。

それは今朝の悪夢だ。

もし、仮説を立てるとしたら、あの時僕は本当に死んで、そこから転生した。

もしくは、轢かれて脳死状態になり今も覚めない夢の中か。

## #2 いっぱいパワキャラいるね…

どうして転生したのか、そもそもこれが転生なのかは分からない。分からないのに気にしてもしかたない。なので、とりあえず気にしないことにした。

それにしても、太刀川が・・・ねえ。

慣れ親しんだ”パワ体”じゃないと、キャラクターだっていう実感が湧かない。太刀川以外に、他にキャラたちはいるんだろうか。

まあ、それは部活動見学に行けば分かるか。

パワプロキャラなら、どうせみんな野球部に入るだろうし。

\*\*\*

ということで、迎えた部活動見学。

一緒に見学に参加している面々を見ても、太刀川以外は誰がパワキヤラなのかわかない。

「ね、ねえ久義くん。あれつてもしかして、恋恋中学でピッチャーやつてた早川あおいちゃんじゃない？」

太刀川に言われ、そつちを見ると――

緑の髪を後ろで結った女の子が居た。

間違いない。あれは“”あの“”早川あおいだ。

詳細な能力の紹介は省くけど、身長もしっかりと167cmありそうだし、オリジナル変化するマリンボールを投げる彼女で確定だろう。

クラスはどこなのか分からないけど、彼女も僕と太刀川と同じで野球部に入るとみて良さそうだ。

これで投手討論のイベント起きそう。

「失礼。君たちも野球部に入るのか？」

突然、後ろから声をかけてきたのは・・・

「突然すまない。私は<sup>さえきはじめ</sup>冴木創。クラスメイトの君たちを見つけたので声をかけたんだ」

イケメン野球女子だった。

まさか、冴木もいるとはね。

アプリの方では超強キャラの冴木創。

金特も確定で貰えるし、打撃／メンタルの2つの得意練習持ち。

初期キャラたちとは別格のぶっ壊れキャラだ。

それにしても、クラスメイトだったのか。

気がつかなくてごめん。

「僕は久我虹介。こっちは太刀川広巳。よろしくね」

「ああ、よろしく」

「よろしくね冴木さん」

「すまないが、私も混ぜてもらえないか？

クラスメイトがもう1人いるというのに、私だけ蚊帳の外というのは寂しいぞ」

「えーっと、君は……………」

少し小柄だけど、整った顔に紫の髪。

パワプロで似てる子いたっけ……………？

いや、パワキャラじゃないのかもしれない。

「私は六道聖ろくどうせいじりだ。よろしく頼む」

は、え!?

六道聖!!

ささやき戦術の!?

鈍足の!?

”””あの”””六道聖!?

「何か、失礼なことを考えてないか？」

「い、いやそんなことはないよ。ぼ、僕は久我虹介」

「分かっている。クラスメイトだろう。太刀川と冴木のこともな。よろしく頼むぞ」

それぞれに紹介を終える。

このメンバーで女子野球部作ったら、かなり強そうだけど、みんな甲子園行きたいんだらうなあ…。

「ところで久我。お前のポジションはどこなんだ？」

ポジションかあ。

正直、どこでもできる。

「僕は、どのポジションも経験してるよ。9つ全て」

「ほう。だが””できる””と””やったことがある””では天と地ほどの差がある。

お前はどちらだ？」

少し厳しめの質問をしてくる六道。

「僕は前者。””できる””だよ。」

「ふむ。まあ、とは言え百聞は一見にしかずとも言う。実際に練習で見てみるのが早いだろうな。」

そんなこんなで、野球部に続々とパワキャラたちが入部した。